

白藍塾オリジナル

2016入試小論文分析&解答のヒント

2016年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・商学部

今年度は、2つの大問から成っている。

Iは、レポートの書き方について論じた文章をもとに穴埋めをさせる問題。これまであまりなかったタイプの課題文なので、とまどった人もいるかもしれないが、文章そのものはわかりやすい。ただし、「新自由主義（ネオリベラリズム）」と言われてピンと来ない人には、その部分は少しわかりにくいかもしれない。

問1は、類語を選ぶ問題。これは国語力が問われるタイプの問題だ。(ウ)の「猖獗を極める」などは、知らない人がいても不思議ではないが、前後の文脈から何となく推測できるだろう。それでもわからない場合は、さっさと次の問題に移ること。

問2～4は、読解力が問われている。ただし、問2の(21)(22)は、新自由主義のことを知らなければ、「自己責任」という答えがすぐには出てこないかもしれない。

問5については、まず(イ)は、文中に「感情は個人的、主観的なもの」というフレーズがあるし、「客観的なデータ」「客観的な根拠」といった言い方も見えるので、「客観的」が妥当。

(う)は、文中の言葉で「文献」と同列に並べられるのは「データ」だろう。

問6は、筆者がレポートにおいて大事だと考えていることをまとめれば、それが答えになる。「相手を尊重しつつ、自分の意見を根拠づけて主張する」などが適切だろう。

Iについては、ほとんど難しい箇所はないので、いかにケアレスミスをしないようにするかが肝心だ。

IIは、昨年度に引き続き、統計学をめぐる文章。かなり高度な内容で、一般の受験生には理解できなくて当然だ。ただし、問題そのものは手に負えないレベルではない。

問1は計算問題。例年に比べて明らかに難易度の高い計算だが、たとえば期待値については課題文の後半で、また $n!$ の計算法については設問の中にヒントがあるので、計算が苦手な人でも、時間をかければ何とかなるはずだ。

問2・3は、統計学が理解できなくてもわかる程度の読解問題。

問4は、なかなかやっかいだ。「可能性のある解釈」と言われても、どう答えてよいかわからない受験生がほとんどだろう。たとえば、Aさんは「ネット広告を出すことで売上が増えた」という因果関係を仮定しているわけだから、それを逆転させて、「売上の多い企業はネット広告を出しやすい」という因果関係を仮定することもできる。このように、検定結果に矛盾

しない解釈を自分なりに考えるしかない。

問5は、課題文の最後の段落をきちんと読めば答えられるはずだ。要するに、Aさんの研究もCさんの研究も、ともに結果が「有意」で「傾向」も一致していて、なおかつ「サンプル数」も十分なのに、足し合わせると「有意」な結果にならない点が、「パラドックス」だというわけだ。そのことを、字数に合わせて説明すればよい。

一つ一つは決して答えられない問題ではないが、これらすべてを時間内に的確に答えるのはかなり難しい。できる問題とできない問題を見極めて、要領よく答えていくことが大切だ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>